

報第4号

くま川下り株式会社の経営状況について

くま川下り株式会社の経営の状況を説明する書類（第53期決算報告書及び第54期事業計画書）を別紙のとおり報告する。

平成27年6月8日提出

人吉市長 松岡 隼人

第 5 3 期 決算報告書
第 5 4 期 事業計画書

くま川下り株式会社

人吉市下新町 3 3 3 - 1
代表取締役 井上 幸生

第 5 3 期

決 算 報 告 書

自 平成 2 6 年 3 月 1 日

至 平成 2 7 年 2 月 2 8 日

第53期 事業報告書

自 平成26年3月 1日
至 平成27年2月28日

事業概況

当社第53期の決算を行いましたので事業の概況と経過をご報告申し上げます。

4月からの消費税率改定に伴う利用料金の値上げや、船頭数減少による稼働隻数の減少及び天候不順の影響等もあり、当期の総事業収入は200,689千円〔対前年88.3%〕と前年の実績には届きませんでした。費用面においては船頭数の減少と乗船手当単価の見直し等で川下り原価が減少したこともあり、経常損失3,999千円となりました。

また、過去4期続けての損失計上という非常に厳しい状況からの脱却をはかるため、昨年、の定時株主総会上で「5つの事業を柱とする事業再生計画」をご承認いただきました。さらに、その改革の実現に際し、最も大きな課題であった設備投資にかかる費用の支援を人吉市へお願いし、8月に人吉市から第三セクター経営基盤強化資金の貸付を受けることができました。予約主体という川下り事業の性格上、一部は年度を跨ぐ事業もありますが、人吉市を始めとする各関係団体等の協力や理解を得ながら、断固たる決意を持って会社再生の実現にむけ計画を推し進めております。

遊覧船事業

当期は、船頭との再雇用契約に際し、乗船手当の減額を含む新賃金額の提示に対して、残念ながら大多数の船頭の理解が得られなかったために、船頭15名で稼働船舶8隻の再スタートとなりました。乗船客数の目標を26,000人と定め、くまがわ荘と合同の営業や従来からの各観光協会との誘致活動、当社独自での九州・山口・大阪での営業、さらに関東・関西・中国方面の修学旅行誘致等の営業活動を行いました。

なお、川下り運航コースにつきましては、当期は従来の清流・急流コースで営業し、再生計画の新コースは平成27年3月1日からのスタートとなりました。

遊覧船事業の実績は、以下の通りで、ショートコース以外は全て減少しており、船賃収入70,153千円〔対前年73.8%〕となり、昨年より24,904千円の減収となりました。要因としては、稼動隻数の減少に伴い、ゴールデンウィークや夏休みといった繁忙期の取りこぼしが挙げられますが、8月～10月は特に週末の天候に恵まれなかったこと等も挙げられます。

コース	客数		増減 (率)	
	H26	H25		
清流・急流	23,165	31,310	-8,145	74.0%
梅花の渡し	424	517	-93	82.0%
ショートコース	1,667	1,090	577	152.9%
計	25,256	32,917	-7,661	76.7%

事業再生計画の進捗状況につきましては、人吉発船場1階に11月10日にレストラン「くまがわマルシェ」がオープンしました。地域の方々にもご好評をいただき、11月10日から2月末までの売上実績は6,502千円となり、口コミ等も手伝って順調に売上を伸ばしております。同時に発船場内のトイレのバリアフリー化も実施しました。また、10月から人吉発船場前において手漕ぎの貸しボートも開始いたしました。

宿泊事業

国民宿舎くまがわ荘につきましては、営業目標を宿泊人数7,500人、休憩宴会人数を25,200人と定め、人吉球磨の町内会・老人クラブや過去の利用客等を中心にダイレクトメールによる営業活動を行いました。郡市外においてもくま川下りと合同で営業活動を行い、当期もくま川下りのショートコースと食事+温泉のパックを販売いたしました。

また、前期から食堂の売上促進の一環として「丼フェア」企画を実施しましたが、当期はメニューを一新して実施し、前期よりも増収しております。
〔対前年 118.3%〕

設備面におきましては、リース期間終了に伴うマイクロバス買取り、1階広間前通路のフローリング、客室の障子張替え、食堂入り口のドアの改修を行っております。また、人吉市の事業で2月から3月にかけて建物一部の耐震補強工事が行なわれました。その間、男性用風呂の使用ができず、宿泊客数への影響もありましたが、この機会に年々ロコミ等で増加している日帰り温泉入浴の客数を更に伸ばすため、改善のための補修を行っております。

当期実績は宿泊人数5,616人〔対前年 83.0%〕、休憩宴会人数22,717人〔対前年 98.6%〕の利用となり、総売上72,423千円〔対前年 88.7%〕と前年実績には届きませんでした。

その他事業

売店物品販売につきましては、8,433千円〔対前年 69.2%〕でした。川下り、国民宿舎ともに施設利用のお客様が主な対象であり、売店物品販売はそれぞれ減収しております。改善策として、くま川下り売店は11月に陳列棚、照明を含む空間の見直しと販売品目の検討を行っております。「くまがわマルシェ」での食事のお客様や施設利用以外の一般のお客様も販売対象になるよう今後も引き続き、販売品目についての再検討と販売方法を研究し、売上増加に努めます。内訳は、くま川下り売店5,603千円〔対前年 64.6%〕、くまがわ荘売店2,829千円〔対前年 80.5%〕となっております。

ラフティングにつきましては、目標を6,000人とし、営業いたしました。雨天が多かった8月、9月は前期実績を下回ったものの、修学旅行の増加等で、利用実績は、前期より1,104人多い4,706人〔対前年 130.6%〕となり、収入で25,851千円〔対前年 127.9%〕となりました。なお、事業再生計画の中で予定しておりました老朽化したラフティングボート10艇の買い換えを行っております。

請負事業につきましては、今年も昨年並みの受注を受けました。結果的にその他事業部門で総収入として当期52,404千円〔対前年 98.2%〕となりました。

貸借対照表

平成27年2月28日現在

くま川下り株式会社

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
I 【流動資産】	【 21,947,251 】	I 【流動負債】	【 28,414,219 】
現金	968,818	買掛金	1,763,438
当座預金	64,830	短期借入金	10,000,000
普通預金	13,076,512	未払金	12,511,651
クーポン	867,750	前受金	142,381
棚卸資産	3,559,266	預り金	1,944,762
前払費用	1,317,367	仮受金	199,187
未収入金	1,784,793	未払消費税	1,570,300
仮払金	307,915	未払法人税等	282,500
II 【固定資産】	【 138,391,578 】	II 【固定負債】	【 129,408,000 】
1(有形固定資産)	(128,610,145)	長期借入金	129,408,000
建物	26,047,253	負債合計	157,822,219
建物付属設備	1,059,795	I 【株主資本】	【 2,516,610 】
構築物	5,275,798	1 資本金	[24,000,000]
機械装置	95,666	2 利益剰余金	[-21,483,390]
車両運搬具	1,899,128	利益準備金	(4,240,000)
船舶	1,888,435	その他利益剰余金	(-25,723,390)
什器器具備品	7,595,392	繰越利益剰余金	-25,723,390
土地	84,748,678		
2(無形固定資産)	(2,281,433)	純資産合計	2,516,610
電話加入権	1,023,905		
借地権	1,257,528		
3(投資その他の資産)	(7,500,000)	負債・純資産合計	160,338,829
温泉利用権	7,500,000		
資産合計	160,338,829		

損益計算書

自 平成26年3月 1日
至 平成27年2月28日

<ま川下り株式会社

科 目	金 額	
(経常損益の部)		円
I【営業損益】		
1(純売上高)		
船 賃 収 入	70,153,607	
国 民 宿 舎 収 入	71,690,370	
売 店 売 上	8,433,207	
レ ス ト ラ ン 収 入	6,502,564	
そ の 他 収 入	36,753,250	
値 引 き	△ 828,122	192,704,876
2(売上原価)		
期 首 棚 卸 高	1,495,815	
売 店 仕 入	5,745,514	
当 期 製 造 原 価	106,555,814	
期 末 棚 卸 高	△ 1,178,371	112,618,772
売 上 総 利 益		80,086,104
3(販売費及び一般管理費)		85,975,280
営 業 損 失		5,889,176
II【営業外損益】		
1(営業外収益)		
受 取 利 息	3,612	
写 真 取 扱 手 数 料	1,315,647	
車 回 送 手 数 料	4,074,720	
雑 収 入	2,590,865	7,984,844
2(営業外費用)		
支 払 利 息	2,691,681	
車 回 送 支 払 費 用	3,162,811	
雑 損 失	240,638	6,095,130
経 常 利 益		△ 3,999,462
(特別損益の部)		
III【特別損失】		
固 定 資 産 除 却 損	71,150	71,150
当 期 利 益		△ 4,070,612

第54期

事業計画書

自 平成27年3月 1日
至 平成28年2月29日

事業計画

昨年とは新たな事業再生計画を掲げ大改革に取り組むべく、当社にとって再出発とも云える年度でしたが、来期も経営改善と経営の安定化に向けて、スピード感を持って会社再生に取り組んでまいります。また、当社の経営理念と企業方針のもと、事業再生計画の事業推進を図るとともに、経営健全化の一環として経営状況については定期的に株主、関係自治体、議会をはじめ、広く市民に対して説明を行っていくこととします。また、平成26年度より役員に社外取締役制度を新設し、経営状況の進行管理と助言等をいただきながら、さらなる改善を図っております。

一般職員と船頭につきましては、全員が一枚岩となって会社の経営状況への共通認識と高い見識を醸成し、常にコスト意識と経営の効率化につながる実践行動をとれる人材の育成に取り組んでおります。

来期の目標をくま川下り乗船客31,800人、ラフティング利用者6,000人、国民宿舎「くまがわ荘」の宿泊人数7,500人、休憩宴会人数25,200人と設定し、目標達成の為、会社一丸となって精進いたします。

くま川下りの営業面に関しましては、来期から運航開始となる新しい4つのコースを自社HPの他、九州各地はもとより中国・関西圏に出向いてエージェンツ等への周知をはかります。また、くまがわ鉄道様との連携した商品開発や、人吉駅近くにオープンする鉄道ミュージアム見学者の取り込みにも努力致します。接客向上においては、定期的なマナー研修会を開き、全体としてのマナーの向上に努めます。お客様からの要望については随時取得しているアンケートにより、それぞれに臨機応変に対処しニーズに応えるよう努力します。さらに接客業の原点に立った「笑顔のおもてなし」を心がけ、乗船客のリピーター化につながるよう努力いたします。

国民宿舎くまがわ荘の来期の取り組みといたしましては以下の通りです。

- 1 くまがわ鉄道の田園シンフォニーとの宿泊プランの継続造成

- 2 くま川下りとのバック商品の強化
- 3 立ち寄り温泉のPR及び利用促進
- 4 耐震工事完了についての安全周知及び利用客増の強化
- 5 国道219号線側の空き地利用

その他、従来のダイレクトメールによる営業活動と割引優待券の発送による利用促進、及びセールス活動をくま川下り職員と一緒にいき、売上増加に努力いたします。

ラフティングにつきましては、引き続き関西関東方面からの修学旅行への営業を強化して参ります。ラフティング事業者同士の、競争が激化する中、安全性、サービスの向上を心掛けて修学旅行以外にも一般客の集客にも努力してまいります。

売店販売につきましては、魅力ある商品開発を計画し、地元特産品コーナーを設置する他に、乗船客の無料送迎を行うメリットとしての人吉発船場での販売増を目指します。

レストラン事業につきましては、昨年11月の開店以来、好評を博していますので、来期も引き続き昼夜の個人利用客と夜の部の宴会客獲得に努力いたします。

情報発信においては、地域、年齢、性別、目的などターゲットを絞った営業活動を積極的に展開いたします。また、魅力ある観光資源の証として、口コミ効果によるリピーターの獲得は再生への礎であり、社員一人ひとりが営業マンとなり、お客様の満足度を高められるよう様々な情報の提供等により、くま川下り事業と連携した地域の魅力アップに取り組んでまいります。

以上を目標に会社再生に向け、目標達成の為頑張る決意です。

損益計画書

自 平成27年3月 1日
至 平成28年2月29日

くま川下り株式会社
(単位:千円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		千円
I【営業損益】		
1 (純売上高)		
船 賃 収 入	82,908	
国 民 宿 舎 収 入	89,227	
売 店 売 上	13,511	
そ の 他 収 入	45,897	
レ ス ト ラ ン 売 上	24,000	
値 引 き	△ 2,407	
		253,136
2 (売上原価)		
期 首 棚 卸 高	1,178	
売 店 仕 入	10,053	
当 期 製 造 原 価	129,729	
期 末 棚 卸 高	△ 1,178	
		139,782
	売 上 総 利 益	113,354
3 (販売費及び一般管理費)		100,420
	営 業 損 益	12,934
II【営業外損益】		
1 (営業外収益)		
受 取 利 息	2	
写 真 取 扱 手 数 料	1,909	
雑 収 入	6,102	
		8,013
2 (営業外費用)		
支 払 利 息	2,385	
雑 損 失	1,213	
		3,598
	経 常 利 益	17,349